



ぐるり庄原 Look Around Shobara カメラレポート Camera Report

REPORT ③

浴衣が彩る夏まつり 七夕まつり★土曜夜市が開催

「七夕まつり★土曜夜市」が7月3日、下本町商店街で開催されました。この祭りは、子どもたちが浴衣を



▲雨でも沢山の人が訪れました

着て遊べる昔ながらの夜まつりとして、地元商店街の方を中心に企画されています。

当日は、日中に大雨警報が出るなど開催が危ぶまれましたが、夕方には天気が持ち直し、無事開催されました。

足元が悪い中でしたが、浴衣で歩く親子づれなど、多くの人出でにぎわいました。夜市には、この日がデビューとなった庄原発の新グルメ「庄原焼き」(13P参照)のコーナー、子どもに大人気の射的や金魚すくい、バイクトライアルのショーなどもあり、大いに盛り上がりました。



▲出店のスタッフも浴衣で気合十分！

比和産の十割そばをアピール 宿泊研修施設「かさべるで」がリニューアル

REPORT ④

宿泊研修施設「かさべるで」の食堂「しごんぼ」は、厨房設備を更新し、7月3日からリニューアルオープンしました。

オープンを記念して、地域食材をアピールしようと、比和町青年連盟が比和産の十割そばを披露するイベントを7月4日に開催。そば打ちに興味のある子どもたちは、そば打ち台を取り囲み、そば粉が水だけでつながるのを不思議そうに眺めながら、早くそばが打ち上がらないかと首を長くして待っていました。

打ち上がった限定20食の十割そばは、瞬く間に完売し大好評でした。



▲比和町青年連盟がそば打ちを実演

REPORT ⑤

地域に根付く地産地消ともてなしの心 大屋ほたる見カフェ開催

西城町の大屋集会所で6月26日、恒例の地域行事「大屋ほたる見会」に併せて「ほたる見カフェ」がオープンしました。

ほたる見カフェは、西城の美しい自然の中で、蛍の観察と旬の食材を使った「食」によるもてなしを提供しようというもの。昨年の大屋ほたる見会で、西城地域の料理研究グループ「サムディシェフ」が企画・実施した取り組みが、今年、地元地域の活動として引き継がれ、地元自治振興区「大屋今櫛会」の有志と子ども会との共同で開催されました。

地元生産者から提供された野菜を中心に、西城地域の産物でメニューを考案。お話し会「ダンボ」による、環境、食、野菜を題材とした本の読み聞かせも行われ、悪天候にもかかわらず地域内外から集まった約100人の参加者は、料理やアットホームな雰囲気を楽しみました。

大屋今櫛会の國上美明会長は「みんなが協力し合ったことで、地元農産物への関心が高まり地域全体のステップアップにつながった。こうした地産地消の取組を地域に根付かせていきたい」と話していました。



▲テーブルの上には、大屋の野菜をふんだんに使った料理が並ぶ

自慢の歌声を披露

合併5周年記念NHKのど自慢が開催

REPORT ①

日本の国民的歌番組「NHKのど自慢」が7月3～4日、庄原市合併5周年記念事業として庄原市民会館で開催されました。

番組には、県内から755組もの出場希望が寄せられ、また、観覧希望も1万2千を超えるなど、この番組の人気の高さがうかがえました。

本番前日に行われた予選会には、書類選考で選ばれた250組が出場。翌日の本番出場を目指し、熱い予選を繰り広げました。

4日の生放送では、番組冒頭で庄原市の紹介があり、元気とやすらぎのまち庄原が全国に向けてアピール



▲横断幕を掲げて出場者を応援

されました。続いて、予選を勝ち抜いた20組(うち市内出場は6組)が思い思いのコスチュームやパフォーマンスで自慢の歌声を披露。観客で埋めつくされた会場を大いに沸かせていました。出場者の中にはゲストの曲を歌う方もあり、今回のゲスト歌手の北山たけしさん・秋元順子さんと一緒に歌う場面も見どころでした。

番組では、おなじみの合格の鐘や生バンドの演奏、舞台セットなどを間近で見ることができ、また、生放送ならではのハプニングもあり、出場者も観客も「のど自慢」を堪能した日となりました。

なお、この模様は7月4日の12時15分から13時まで全国に生放送され、3日の予選会の模様も18日1時20分から4時5分までNHK総合で県内向けに録画放送されました。



▲特別賞を獲得した高野町の青樹英明さん京子さん夫妻

REPORT ②

元庄原赤十字病院勤務医師がひだまりの会を応援 庄原の小児医療を考えるひだまりの会学習会

庄原の小児医療を考えるひだまりの会が7月8日、庄原市ふれあいセンターで小児医療学習会を開催しました。

今回は、西山皮ふ科アレルギー科院長の西山成寿さんを講師に招き「どうしたらいいの？子どもの皮膚トラブル」と題し、話を聞きました。

参加した42人の母親たちは、子どもの皮膚疾患という身近な知識を得ようと、ユーモアを織り交ぜた話に

耳を傾けました。

初めて参加した柳原志保さん(東本町)は「現在子どもが治療中なので、具体的な話を聞けてよかった。次も参加したい」と話していました。



▲学習会後に西山院長を囲んで交流会

西山さんは、庄原赤十字病院に平成10年から6年間勤務されたかかわりがあり、同会の熱心な活動に少しでも役立ちたいと申し出たことから、今回の学習会が実現しました。「ひだまりの会の活動はすごいと広島でも評判。庄原に産科がない現状を私も心配している。今後も何かの形でサポートしていきたい」と話し、学習会の継続に意欲を示していました。同会代表の一人、八谷るり子さん(川北町)は「最初、先生から直筆の手紙をいただき、その思いにとっても感激した。温かいお気持ちが本当にありがたい」と感謝していました。



▲わかりやすい説明にうなづく参加者



REPORT ⑨

子どもたちのために役立てて 庄原市指定給水装置工事事業者協会がビート板を寄贈



庄原市指定給水装置工事事業者協会(玉川淳会長)が7月2日、地域貢献の一環としてビート板(氷泳用具)100枚(15万円相当)を市教育委員会に寄贈しました。辰川教育長は「水泳の指導に有効活用していきたい」とお礼を述べ、礼状を贈りました。玉川会長は「大きい金額ではないが、地域の子どものために役立ててほしい」と話していました。なおビート板は、庄原地域の各小学校に配布され有効に活用されています。

◀ビート板を手渡す玉川淳会長(左)

5万年前の地層を学ぶ 高野小が文化財発掘現場を見学

REPORT ⑩

高野小学校の5・6年生の児童36人が6月30日、中国横断自動車道尾道松江線の建設工事で発見された文化財の発掘現場を見学しました。

この見学会は、尾道松江線を担当する地元建設業者が協力して実施。岡東古墳では、古墳時代のものと思われる円墳が7基発見されたことや、土器の一部や鉄を利用した刃物が出土したことなどを研究員が説明しました。

只野原3号遺跡発掘調査現場では、三瓶山の噴火による火山灰が堆積した約5万年前の地層や発掘された住居跡などを見学し、児童たちは熱心にメモを取っていました。

この発掘調査は来年まで続く予定で、日本最古の出土品の発見に期待が寄せられます。



▲発掘作業などを熱心に見学する子どもたち

REPORT ⑪

花がもたらす優しい気持ち 上市自治会が花街道事業

総領町の上市自治会が6月27日、地域内を花でいっぱいにする「上市花街道事業」を実施しました。

「自治振興区活動促進補助金」を活用して平成17年度から始めた事業で、これまで毎年春と秋にプランター約300鉢を植え替えています。プランターは家の軒先や道路沿いなどに設置し、各家が近くのプランター4～5鉢程度、責任を持って管理しています。

今回も、グリーンウインズさとやまの斎木義伸さんの指導のもと、サルビアとペゴニアを約30人で植えました。

参加者は「上市地域に訪れる人や通学する子どもたちが、かわいい花を見て心優しい気持ちになってくれれば」と話しています。



▲斎木義伸さんの指導を受ける自治会メンバー

東小学校児童が校区内施設へ花を贈る 人権の花運動

REPORT ⑥



▲東小学校の児童たち

市内の小学校や特別支援学校では、4月から「人権の花運動」に取り組んでおり、今年初めての贈呈式を東小学校の児童10人が行いました。



児童たちは、同校区内の七塚駐在所、東自治振興センター、介護老人保健施設愛生苑を7月7日に訪れ、マリーゴールドやヒャクニチソウなどを育てたプランター9鉢を贈りました。愛生苑の職員に手渡した西嶋悠人くん(6年)は「花を見て元気になってくれたらうれしい」と笑顔で話していました。

訪問先ではそれぞれ3鉢を贈呈 ▶

REPORT ⑦

各地域で「住宅デー」ボランティア 広島県建設労働組合が奉仕活動



▲きれいになって喜ぶ田森保育所の園児たち

全国統一「住宅デー」の6月25日を中心に、全国各地で建設労働組合による技術奉仕活動が行われています。市内では、6月25日から27日にかけて、広島県建設労働組合12地域連合庄原地連の54人が、各教育施設の修繕や刃物とぎなどの奉仕活動を行いました。

西城地域では、子どもたちが毎日学校で気持ちよく過ごせるようにと、小中学校で電灯を取り替えたほか、コンセント・トイレ扉・下駄箱の修理を行いました。

12地域連合庄原地連長の田辺稔さんは「教育は、良い環境のもとで行うことが大事だと思う。子どもたちが少しでも安心して学んでくれればうれしい」と話していました。

地区の闘志がぶつかり合う 口和体育祭が開催

REPORT ⑧

第6回庄原市口和体育祭が6月20日、口和総合運動公園で行われました。

口和自治振興区(川崎綱人区長)が主催したもので、8地区約350人が参加し、全12種目を競い合いました。

最終競技の地区対抗リレーでは、地区民一体となって激走するランナーを応援し、30代の男性が並ぶアンカー対決は、この日最も白熱し声援が飛び交っていました。

なお、総合成績は以下のとおりです。

- 優勝:大月地区
- 準優勝:宮内地区
- 第3位:向泉地区



▲白熱の地区対抗リレー